

知っちよる? しものせき

下関市立大学編

J's ページ

このページは、ジュニアのページ (J's ページ) として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は下関市立大学です。

観光地としてもっと発展させるには!?

～豊北地区観光動向実態調査を実施～

※1 教職員や学生が、行政やまちづくり団体など地域の各種組織と連携し、地域の諸問題や課題の解決を目指し地域に貢献すること

みなな、知っちよる?
2000年に角島大橋が完成し、角島を訪れる観光客は右肩上がりに増え続けているんだよ。これからも角島を観光地として発展させていくためにはどうしたらいいんだろう。一つには、観光客がどうして角島に来ているのか調べる必要があるよね。

そこで、下関市立大学では、「豊北地区まちづくり協議会活性化部会」と一緒になって、角島など豊北地区の観光地での「観光動向実態調査」を実施したんだ。

この調査は、市立大学の学生の地域インターンシップ※1活動として、経済学部の濱田先生と菅先生の指導で行ったんだよ。

調査の他に、太陽館(豊北町蒲部公民館)で豊北地区を活性化させるためのワークショップを開催したよ。参加者43人が6つの班に分かれ、10年後に理想の豊北地区となるように、豊北の変えたいことや残したいことを考えたんだ。豊北高校の生徒も参加して自分たちが住んでいる豊北の未来の姿へ活発に意見を出していたよ。

ワークショップを運営した学生たちは、豊北地区の将来を熱心に

調査は角島を中心とした豊北地区の観光地で8月と10月の2回実施したよ。1回目は観光客が多い8月。角島の「しおかせの里」、「海士ヶ瀬公園」や「道の駅北浦街道ほろほく」で行い、予定していた200人(2回合計390人)からアンケートを回収できたんだ。本当に暑かったけど成果はあったよ。

豊北地区活性化に向けて!

報告会では、調査をした3人の市立大生が、角島大橋の景観が訪問者に高い満足を与えているが、道路事情や狭い駐車場、店舗数の少なさや情報提供不足などの課題があり、もっとサービスの充実が必要であると指摘したんだ。

参加者からは、滞在時間が短い観光客に周遊してもらうために史跡などを説明するボランティアの組織化が必要などの意見が出たよ。

下関市立大学は地域に飛び出した取り組みもしているんだ。これから、下関市の活性化に向けた研究や活動をしていくよ。

議論する高校生の様子に触れ、まちづくりへの関心を高めたよ。

観光動向実態調査報告会

調査やワークショップの結果は2018年2月に太陽館での「豊北地区観光動向実態調査」結果報告会で報告をしたよ。

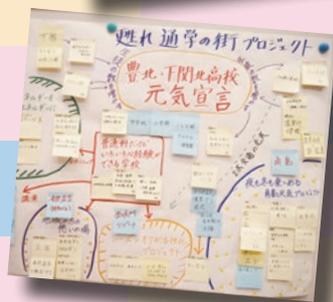
「フィールドワーク」※2

※2 学外・研究室外で行う調査・研究のこと



「ワークショップ」※3

※3 課題解決のために共同して作業を行うこと



「報告会」



「報告書」

